



1. ITER 中性粒子ビーム入射装置実機試験施設 (NBTF)用高電圧電源およびHVブッシングに関する契約締結

ITERの中性粒子ビーム入射装置(NBI)は、1機あたりエネルギー1 MeV、ビームパワー16.5 MWの中性粒子ビームを1時間にわたってトカマクに入射し、プラズマの加熱・電流駆動を行います。かつてない高エネルギー・大電流のビームを生成するため、ITER用NBIの建設に先立って実規模のNBI実機試験施設(NBTF)をイタリアのパドヴァに建設し、実証試験を行います。日本は、このNBTF用の高電圧電源と、絶縁ガス中を伝送される電力線や冷却水配管等を真空中のビーム源に接続するHVブッシングを調達します。原子力機構は、高電圧電源およびHVブッシングに関する契約の締結に向けて、手続きを進めてきました。このたび、NBTF用高電圧電源の契約を株式会社日立製作所と、HVブッシングに関する契約を京セラ株式会社ならびに日立原町電子工業株式会社と締結し、NBTFに向けた機器の製作に着手しました(図1)。

2. ITER 機構職員募集説明会の実施

第12回放射線遮蔽国際会議(9月2~7日 奈良県新公会堂)、日本機械学会2012年度年次大会(9月10~12日 金沢大学 角間キャンパス)および日本原子力学会2012年秋の大会(9月19~21日 広島大学 東広島キャンパス)においてブースを出展し、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ITER計画について説明するとともに、ITER機構職員募集および登録の案内を行いました。ブースには、ITER模型(100分の1スケール)、核融合関

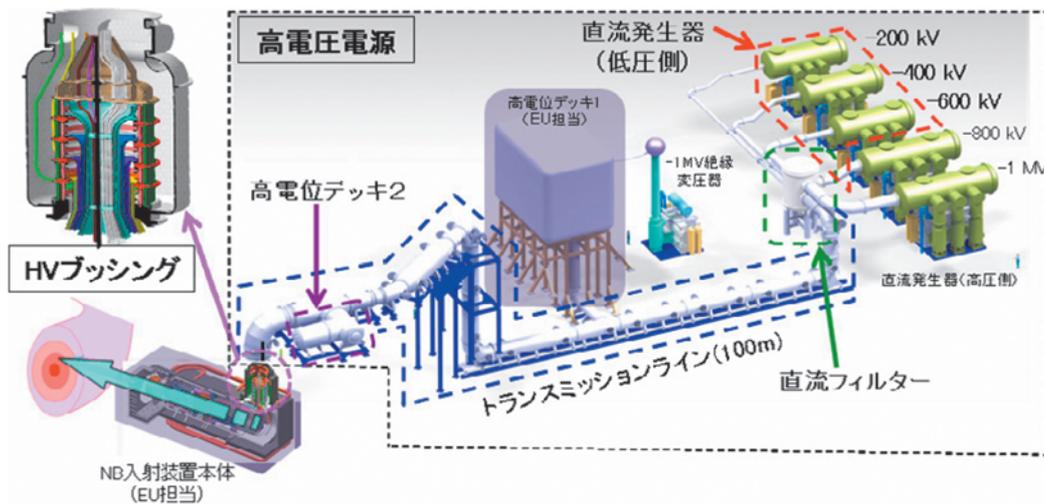
連施設の写真集などを展示し、多くの参加者に興味を持ってもらうことができました。参加者には、学生も多く、熱心に説明を聞き、パンフレットを持ち帰る姿が見られました(図2)。

また、9月29日のJAEA那珂核融合施設見学会では、ITER研究開発棟ロビーにおいて、ご来場の方々を対象にITER計画の説明などを行いました。遠方からITER計画の進捗が知りたいという方もおられて、ITERに対する関心の高さが感じられました。

これらの詳細につきましてはITERウェブサイト(<http://www.naka.jaea.go.jp/>)の「ITER機構職員募集説明会について」をご覧ください。



(図2) 日本機械学会2012年度年次大会におけるITER展示ブースの様子。



(図1) NBTF全体図と今回の契約機器(破線内)。